

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	群馬県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	伊勢崎市立宮郷中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	2	17	34
生徒数	186	197	186	9	578	

研究の概要

1. 研究主題

自ら課題を見つけ、学び、考えることのできる生徒の育成
- 確かな学力の向上を目指すきめ細かな指導の実践を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

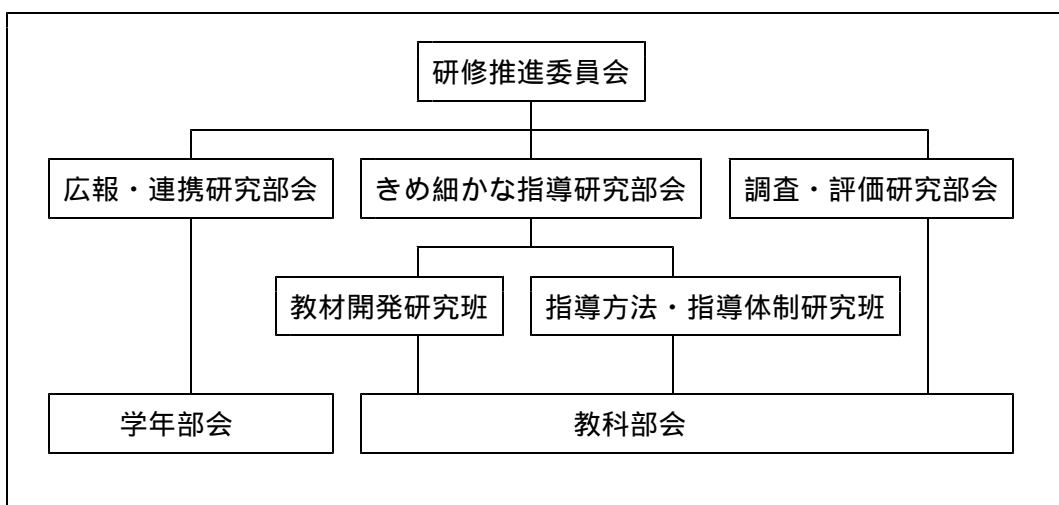
・全学年 全教科
学校全体の取り組みとするため、全学年、全教科で実施している。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 自ら課題を見つけ、学び、考えることのできる生徒の育成 - 確かな学力の向上を目指すきめ細かな指導の実践を通して -</p> <p>研究の見通し 各教科において、個に応じたきめ細かな指導を実践することによって、確かな学力の向上が図られ、生徒は、自ら課題を見つけ、学び、考えることができるようになるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1)基礎研究 「確かな学力」「個に応じたきめ細かな指導」「課題解決的な学習」等についての本校としての捉え方を明らかにし、全職員の共通理解のもと、実践研究を進めていく。</p> <p>(2)教科指導の充実 教科経営案の作成 個に応じたきめ細かな指導の充実を図るため、目指す生徒像、身につけさせる学力、指導の重点、具体的な指導の手立て等を各教科で明らかにした教科経営案を作成する。 「年間指導計画」の改善・「指導と評価の計画」の作成 必修教科において、少人数指導やTTによる指導など、個に応じたきめ細かな指導の充実を図るため、年間指導計画の見直しを行う。選択教科においては、多様なコースを開設し、課題学習、発展的な学習、補充的な学習を適正に位置付けた年間指導計画を作成する。また、指導に生かす評価ができるよう指導と評価の計画を作成する。 個に応じたきめ細かな指導の実践 ・ をもとに、各教科において、個に応じた指導のための教材の開発、指導方法・指導体制の工夫改善、指導に生かす評価の工夫など、きめ細かな指導を実践する。</p> <p>(3)学習習慣確立へ向けての実践 学校および家庭における基本的な学習習慣の確立を目指し、朝学習指導やチャイム着席指導、毎日の生活ノートの活用、読書週間の実施、夏季・冬季休業中における補充学習の実施、家庭向けリーフレットの配布と活用、などの取り組みの充実を図る。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 自ら課題を見つけ、学び、考えることのできる生徒の育成 - 課題解決的な学習におけるきめ細かな指導の実践を通して -</p> <p>研究の見通し 各教科において、課題解決的な学習過程に応じたきめ細かな指導を実践することによって、確かな学力の向上が図られ、生徒は自ら課題を見つけ、学び、考えることができるようになるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1)基礎研究 基礎・基本をもとにした課題解決力の育成を図る課題解決的な学習のあり方を明らかにし、各教科の共通理解を図る。</p> <p>(2)教科指導の充実 教科経営案の改善・充実 各教科に適した課題解決的な学習過程を明らかにし、その各過程におけるきめ細かな指導の手立てを工夫し、教科経営の改善・充実を図る。 年間指導計画の改善・充実 必修教科、選択教科ともに、課題解決的な学習をより重点的に扱う単元や題材を明らかにし、指導の改善・充実を図る。 個に応じたきめ細かな指導の充実 ・ をもとに、各教科において、個に応じた指導のための教材の開発、指導方法・指導体制の工夫改善、指導に生かす評価の工夫など、きめ細かな指導をより充実させ、実践する。</p> <p>(3)学習習慣確立へ向けての実践 基本的な学習習慣の確立を目指し、平成15年度の取り組みを継続、発展する。また、小中の連携や地域との連携の充実にも重点を置く。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

個に応じたきめ細かな指導の充実

- ・ 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発を行った結果、生徒は自分の力に合わせて学習を進めることができ、学習意欲が高まった。
- ・ 少人数指導、T Tによる指導、習熟の程度に応じた指導などの指導方法・指導体制の工夫改善を行ったことで、個に応じた支援の機会が増え生徒のつまずきや疑問にすぐに応じることができるようになった。その結果、生徒の理解が進み、「わかった」「できた」という達成感をもたせることができた。
- ・ 生徒一人一人の理解や考え方の様子や目標に対する到達度が把握しやすくなり、次の学習場面でさらに適切な指導を行うことができるようになった。結果として、多くの生徒に基礎・基本の学力の定着が図られてきている。
- ・ 全教科において研究実践を進めたことにより、学校全体としてきめ細かな指導の充実を目指す態勢や、授業の質を高めようとする職員の意識の向上が見られた。また、教科間の情報交換が活発になり、他教科の実践のよい面を生かそうとする姿勢が見られるようになってきた。

基本的な学習習慣の確立

- ・ 日々の指導を継続、充実させることで、生徒は落ち着いた学校生活を送り、授業により真剣に取り組むことができるようになってきている。
- ・ 長期休業中の補充の実施により、休業中の家庭学習や学期始めの授業に学習意欲をつなげることができた。

2. 今後の課題

課題解決力のより一層の育成を目指し、課題解決的な学習過程におけるきめ細かな指導の手立ての工夫・改善を進める必要がある。

個を伸ばすための指導として、補充的な学習だけでなく発展的な学習を効果的に実践できるよう、教材の開発や指導方法・指導体制の工夫・改善を進める必要がある。

選択教科について、必修教科とのより効果的な連携が可能となるように、開設コースや指導内容、指導方法の工夫・改善を進めていく必要がある。

各教科において実践しているきめ細かな指導が、生徒一人一人の実態に応じたものになっているか、確かな学力の向上に有効な手立てとなっているかなど、実践の検証方法について再度検討し、改善していく必要がある。

学力把握のための学校としての取組

定期的なN R T学力検査の実施	
調査の目的	生徒の学力の実態を客観的に把握し、指導に生かす
実施教科	国語・社会・数学・理科・英語
実施時期	平成15年4月
C R T学力検査の実施	
調査の目的	目標に準拠した生徒の学力の実態を客観的に把握し、指導に生かす
実施教科	数学
実施時期	平成16年2月
アンケートによる生徒の意識・実態調査	
調査の目的	「興味・関心・意欲・態度」等に関する実態を把握し指導に生かす
実施時期	平成15年7月・平成16年2月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年度	
実施時期	平成16年1月31日
場所	プラザエリア
対象	伊勢崎市経営研究会会員(市内各校管理職・教職員)
目的	フロンティアスクールとしての中間発表を行い、研究成果を市内の各学校へ普及する
平成16年度	
実施時期	平成16年11月上旬
場所	本校
対象	市内小中学校教職員および県内外の教職員
目的	フロンティアスクールとしての研究発表会を行い、研究成果を市内の各学校へ普及する
webページによる研究成果の紹介	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無